

岩手らしい住まいと暮らしとは？ それをどう伝えていくか

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：岩手らしい高断熱で地域に根差した住宅（岩手型住宅）の普及に向けた情報発信と住教育の展開可能性に関する研究

研究代表者：盛岡短期大学部 青笹健

課題提案者：岩手県建築住宅課

研究メンバー：箱石貴文、廣瀬栄司、千葉巨樹(岩手県)、田村妃菜、藤川光(盛岡短期大学部)

技術キーワード：ZEH、住み継ぎ、移住、居住体験、住環境教育

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県が進める「岩手型住宅」の普及には断熱性能などの効果効能が伝わりにくいなどの課題がある。本研究では、「岩手らしい住まい」の普及に向けて、**伝えるべき情報と手段を考え直すこと**を目的に、「**作り手**」「**住まい手**」「**次世代への住教育**」の3つの視点で、先進事例などから住まいづくりに関する実態を把握する。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 作り手の視点

- 方法：R6年度いわてZEH+住宅補助金（新築）の活用事例4件を対象とした設計者ヒアリング
- 内容：ZEHの設計方法・考え方を把握

2. 住まい手の視点

- 方法：リノベーションでの住み継ぎ事例2件、移住事例2件を対象とした居住者ヒアリング
- 内容：経緯、住み心地等の居住体験を把握

3. 次世代への住教育の視点

- 方法：体験学習プログラムの企画と試行
- 内容：盛岡市内の中学校2年生の家庭科の授業として試行し、課題や展開可能性を把握

▼研究の成果（結論・考察）

- ZEH+事例において、**日射の取扱い**に関する考え方の違いが設計に反映されていること、窓計画には**地域差**があること等を確認した（結果①）。
- 住み継ぎ事例では**祖父の代からの家を空き家にしたくない**との想いがきっかけになっていること、改修後は**暖かさ**に満足していること等を確認した。
- 温度測定データに基づいて、温度変化や部屋間の違いなどを考察する体験学習では、住生活学習への**関心の高まり**が見られた（結果②）。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 広い県土に対応した情報発信に向けて、多様な地域でのZEH+住宅の設計方法、居住体験や効果についてさらなる情報の蓄積が必要である。
- 住教育の体験プログラムについては、内容や実施方法を適宜見直し、多様な地域、幅広い世代に対して実施できるよう展開可能性を県とする。
- 調査の実施にあたり、ヒアリングにご協力いただきました皆様、中学校での体験学習の試行にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

